

御礼と報告

東日本大震災に際し、温かいご支援を賜りました皆様のご厚情に対し、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

震災当初、人口の六割が避難所生活をしておりましたが、十一月九日をもつて避難所を閉鎖し、仮設住宅へ転居することができました。子どもたちもようやくく日常生活を取り戻すことができ、復興に向けた確実な歩みを始めております。

学校再開直後は、「今、女川は何色に見えますか」「天国と地獄の境はどこですか」「ただ今と聞きたい声が聞こえない」と表現していた子どもたちが、八ヶ月が経過した現在、「止まっていた女川の時間動き出す」「笑えてるお帰りなさいもとの自分」「あの時は無理だと思っていた文化祭」と、復校への願いや思いを伝えていきます。震災と向かい合って、震災を乗り越えようとする子どもたちの姿が見えてくると思われます。

女川町の教職員は、「女川の子どもたちは、女川の先生が育てる」という使命感を持ち、町ぐるみの「学びの共同体づくり」を進めています。今回の震災で、学力や体力の低下の問題、心のケアを必要とする子どもたちの増加等、課題は山積しています。

女川の子どもたちは、皆様のご支援のおかげで明るく生き生きと学び、楽しく仲良く友と交わりながら、たくましく育っている姿を「女川のみんなで」と題して、写真と子どもたちの言葉で送らせていただきます。皆様のご厚情に応えられるよう、子どもたちの教育に邁進して参る所存しております。今後ともご指導ご支援をお願いし、御礼とさせていただきます。

平成二十三年十二月吉日

各位

女川町教育委員会

女川町小中学校長会・教頭会

女川町父母教師会連合会